

次期西東京市教育計画（平成 31～35 年度）に向けた地域特性の整理

現計画	現計画・関連資料から見られる現状・課題		教育を取り巻く西東京市の「強み・弱み」		
	西東京市第 2 次基本構想・基本計画（平成 26 年 3 月）	関連計画、事業評価等	アンケート結果等		
<p>基本方針 1 「生きる力」の育成に向けて</p> <p>基本方針 2 「生きる力」を育むための学校教育環境の充実に向けて</p> <p>基本方針 3 一人ひとりを大切にす る教育の推進に向けて</p> <p>基本方針 4 社会全体での教育力の向上に向けて</p> <p>基本方針 5 いつでも・どこでも・だれでも学べる社会の実現に向けて</p>	<p>・自治会・町内会などの地縁組織やその活動は衰退する傾向にあり、これまで地域が担っていた助けあい・支えあいなどの共助（相互扶助）の機能やしきみの弱体化が進行</p> <p>・本市における 14 歳以下の年少人口は、平成 29（2017）年時点の 24,736 人から平成 39（2027）年には 23,094 人（9%減）にまで大きく減少する見込み</p> <p>・区部に隣接し都心に近く、通勤・通学にも便利な住みやすい住宅都市としての顔を持つ</p> <p>・複数の大学や企業が立地し、世界最大級の先進的なプラネタリウムを擁する多摩六都科学館もあり、多くの NPO や市民活動団体が主体的に活動するなど、さまざまな魅力的資源を有する</p> <p>・少子化、核家族化が進む中、学校、家庭、地域における子ども同士のふれあいや子どもと地域住民、親とのふれあいが希薄になっている</p> <p>・自分自身の能力の向上や心の豊かさを高めるために、学校教育以外の場での学習機会や文化芸術やスポーツ活動に親しめる環境づくりが求められる</p> <p>・「重点改善分野」には、「子どもの教育環境」が分類</p> <p>○平成 29 年度施策評価実施結果</p> <p>・成果の向上を図りつつ、コストは現状を維持する施策：生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興</p> <p>・成果を維持しつつ、コストも現状を維持する施策：学校教育の充実、生涯学習環境の充実</p> <p>・成果を維持しながら、コストを抑制する施策：学習活動の推進、文化芸術活動の振興</p> <p>○施策に対する満足度（H29）</p> <p>・学校教育の充実：20.3%</p> <p>・生涯学習環境の充実：26.0%</p> <p>・学習活動の推進：40.2%</p> <p>・生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興：33.5%</p> <p>・文化芸術活動の振興：35.6%</p> <p>○施策に対する重要度（H29）</p> <p>・学校教育の充実：76.4%</p> <p>・生涯学習環境の充実：69.1%</p> <p>・学習活動の推進：71.1%</p> <p>・生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興：69.3%</p> <p>・文化芸術活動の振興：64.6%</p>	<p><子育て・子育てワイワイプラン></p> <p>・少子化、過度の受験競争のなかで、一人ひとりの子どもたちが自分らしさをみつけだし、仲間とともにゆっくりと子ども時代を過ごす権利を保障することができなくなっている</p> <p>・地域のつながりの希薄化とともに地域全体で子どもが成長しておとなになっていくための、有効なプログラムが少なくなっている</p> <p><西東京市スポーツ推進計画></p> <p>・大学のトップレベルの競技者や指導者などの人材や施設、看護・リハビリテーション分野における人材や施設などの資源を有している</p> <p>・スポーツをしない児童・生徒の割合は前回調査（平成 16 年）から減少していますが、スポーツ実施率は概ね横ばいか若干の増加傾向</p> <p>・現在全く運動を行っていない人に、中学生や高校生頃に運動経験が無い人が多い</p> <p>・市民の週 1 回以上のスポーツ実施率は、30 代、40 代の働き盛り世代で低い傾向</p> <p>・若者が地域で自由に身体活動を行う環境づくりを推進するため、若者が求めるスポーツニーズを把握することが必要</p> <p>・仕事や子育てでスポーツをしたくてもできない状況にある人のための取り組みを検討することが必要</p> <p><西東京市文化芸術振興計画></p> <p>・市民による自主的な文化及び芸術活動が盛んに実施、市内各所で関連した事業を実施</p> <p><第 2 次西東京市健康づくり推進プラン></p> <p>・子供の頃に身体を動かす喜びを知ることはとても重要ですが、特に近年はゲーム機や携帯電話の普及により、身体を十分に動かすことのない遊びが増加</p> <p>・長期欠席者 小学生：73 人（H23-67 人）、中学生：151 人（H23-151 人） 小・中学生ともに増加</p> <p><西東京市人材育成基本方針></p> <p>○求める職員像</p> <p>・市民ニーズに的確に対応できる職員</p> <p>・プロフェッショナルとしての意識を持ち、責任ある行動をとることができる職員</p> <p>・チャレンジ精神を持ち、課題に挑戦していく職員</p> <p><事業評価>（平成 28 年度）</p> <p>・区市町教育委員会内に、スクールソーシャルワーカーをコーディネーター役として配置し、支援チームを構成した（5 区市町）</p> <p>・支援チームは、学校、教育支援センター（適応指導教室）、教育相談所、福祉等の関係機関等と連携して不登校児童・生徒への支援に当たってきた</p> <p>・公民館事業評価：十分達成 8%、概ね達成 88%、努力が必要 4%</p> <p>・図書館事業評価：十分達成 95%、概ね達成 7%</p> <p>・西東京市民会館が老朽化のため、平成 31 年 3 月 31 日を持って閉館。官民連携施設整備を予定。</p> <p>・特別支援教室について、平成 29 年度に全校試行開設、平成 30 年度に本格実施</p> <p><施策評価>（平成 29 年度）</p> <p>・平成 28 年 3 月に西東京市文化財・保存活用計画を策定</p> <p>・平成 30 年度に下野谷遺跡整備構想を策定</p> <p>・公民館の施設利用者数及び主催事業への参加者は、増加傾向</p> <p>・ひばりが丘公民館の分室化に伴い、西東京市公民館の運営体制を見直すことが必要</p>	<p><北多摩北部保健医療圏 保健医療福祉データ集平成 29 年版資料></p> <p>・児童・生徒の肥満傾向数の割合は、小学校 3 年生～6 年生男子と小学校 2 年生～5 年生女子は都より低い</p> <p><全国学力・学習状況調査（平成 29 年度）></p> <p>・小学 6 年生で、国語 A は 77%、国語 B は 62%と東京都、全国平均正答率を上回る</p> <p>・小学 6 年生で、算数 A は 82%、算数 B は 50%と東京都、全国平均正答率を上回る</p> <p>・中学 3 年生で、国語 A は 81%、国語 B は 76%と東京都、全国平均正答率を上回る</p> <p>・中学 3 年生で、数学 A は 67%、数学 B は 52%と東京都、全国平均正答率を上回る</p> <p>・授業において自分の考えを発表する機会を与えられていると回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国平均より 4%程度高い</p> <p>・授業の中で話し合い活動を行っていると回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも年々増加し、全国平均より高い</p> <p>・読書が好きであると回答した生徒の割合は年々増加し、全国平均より高い</p> <p>・授業の中で、目標、目当て、狙いが示されていたと回答した割合は、全国平均より 4%低い、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと回答した割合は、全国平均より 6%低い</p> <p>・小・中学校とも児童・生徒が発表したり話し合ったりする学習活動を積極的に取り入れており、一律的な講義形式から、相互の交流、対話的な学びを取り入れた授業へと改善が進んでいる</p> <p>・漢字の読み書き、商を分数で表すこと、学習した用語についての理解など、幾つかの内容について全国の平均正答率を下回っており、知識・技能を身に付ける指導方法の工夫・改善をしていくことが必要</p> <p>・中学校において学習目標を示したり、学習したことを振り返ったりする活動の割合が全国平均より下回っていることから、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れられるように工夫をすることが必要</p> <p>（今後の取組の方向性）</p> <p>・学力向上推進委員会や英語教育推進委員会における義務教育 9 年間の学びの連続性を基盤とした授業改善</p> <p>・「学力向上推進プラン」の改善</p> <p>・指導主事による授業改善に関する指導・助言の充実</p> <p><平成 29 年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査></p> <p>・児童・生徒の体力合計点は、小学校と中学校 1 年生男子、中学校 2 年生女子、中学校 3 年生男子で都より高い</p> <p>・運動やスポーツを週にほとんど毎日（3 日以上）している子供の割合は小学校 3 年生女子以外で都より高い</p> <p>・運動やスポーツを 1 日 60 分以上している子供の割合は小学校 1 年生男子、中学校 3 年生女子以外で都より高い</p> <p><平成 28 年度市民の健康に関するアンケート調査></p> <p>・自分のことを好きと思える割合（「そう思う」＋「まあそう思う」） 小学校 4 年生男子：66.2% 小学校 4 年生女子：62.5% 中学校 1 年生男子：54.3% 中学校 1 年生女子：50.7%</p> <p>・子供をかわいいと思えず負担と感じる、子供といっしょにいるのがつらい、子供をたたいてしまう親の割合 子供をかわいいと思えず負担：0.7% 子供といっしょにいるのがつらい：2.0% 子供をたたいてしまう：5.0%</p> <p><平成 29 年度西東京市図書館利用者アンケート調査></p> <p>・満足度が 81.9%</p> <p>・開館時間の延長や施設、整備の充実の希望意見もあり</p>	<p>【機会】</p> <p>○「いじめ防止対策推進法」制定（平成 25 年 6 月）</p> <p>○「子ども・子育て支援新制度」施行（平成 27 年 4 月）</p> <p>○「子どもの貧困対策の推進に関する法律」施行（平成 26 年 1 月）</p> <p>○「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」施行（平成 27 年 4 月）</p> <p>○次期学習指導要領の改訂</p> <p>平成 27 年 3 月の学校教育法施行規則の改正により、教育課程における「道徳」は「特別の教科である道徳」として位置づけられる</p> <p>○小学校 3、4 年生から英語活動を行うことや小学校 5、6 年生で英語を教科化すること、中学校において授業を英語で行うことを基本とすることが大きな柱となっている。</p> <p>○「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」施行（平成 28 年 4 月）</p> <p>○「第 3 期教育振興基本計画」答申（平成 30 年 3 月）</p> <p>○「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」諮問（平成 30 年 3 月）</p> <p>・知識・情報・技術をめぐる変化が加速的に早くなっている</p> <p>・東京一極集中の傾向が加速</p> <p>・国内外の学力調査結果が近年改善傾向にあることのほか、子供たちの学習時間は増加傾向にある</p> <p>・内閣府の調査によれば、子供たちの 9 割以上が学校生活を楽しいと感じ、保護者の 8 割は総合的に見て学校に満足している</p>	<p>【脅威】</p> <p>・技術革新やグローバル化の進展に伴う社会の変化</p> <p>・雇用環境の変化等に伴う就学・就業構造の変化</p> <p>・低出生率と長寿命化により、世界的に最も少子高齢化が進行</p> <p>・少子高齢化の影響により、今後さらに児童生徒数の減少が見込まれる</p> <p>・今後 10 年～20 年後には日本の労働人口の約 49%が技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性もある</p> <p>・我が国の在留外国人数や、海外の在留邦人数は増加</p> <p>・子供の貧困など格差の固定化</p> <p>・家庭環境や地域社会の変化により、親子の育ちを支える人間関係が弱まり、子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱え、子供の社会性や自立心などの育ちをめぐる課題等が生じている</p> <p>・判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が指摘されている</p> <p>・平成 27（2015）年度の国公私立小・中・高等学校の不登校児童生徒数は 17 万人以上</p>
				<p>充実していることや方針【強み】</p> <p>・都心部へのアクセスの利便性と郊外の居心地の良さを享受できるまち</p> <p>・多世代が居住するまち</p> <p>・魅力的な学習環境や市民文化が息づくまち</p> <p>・区部に隣接し都心に近く、通勤・通学にも便利な住みやすい住宅都市としての顔を持つ</p> <p>・複数の大学や企業が立地し、世界最大級の先進的なプラネタリウムを擁する多摩六都科学館があり、多くの NPO や市民活動団体が主体的に活動するなど、さまざまな魅力的資源を有する</p> <p>・平成 29 年度の全国学力・学習状況調査の結果、すべてで東京都、全国平均正答率を上回る</p> <p>・授業において自分の考えを発表する機会を与えられていると回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国平均より 4%程度高い</p> <p>・授業の中で話し合い活動を行っていると回答した児童・生徒の割合は、小・中学校とも年々増加し、全国平均より高い</p> <p>・児童・生徒のスポーツ実施率は概ね横ばいか若干の増加傾向</p> <p>・市民による自主的な文化及び芸術活動が盛んに実施、市内各所で関連した事業を実施</p> <p>・児童・生徒の肥満傾向数の割合は、小学校 3 年生～6 年生男子と小学校 2 年生～5 年生女子は都より低い</p> <p>・児童・生徒の体力合計点は、小学校と中学校 1 年生男子、中学校 2 年生女子、中学校 3 年生男子で都より高い</p> <p>・運動やスポーツを週にほとんど毎日（3 日以上）している子供の割合は小学校 3 年生女子以外で都より高い</p> <p>・下野谷遺跡が国の史跡として指定（平成 27 年）</p> <p>・公民館の施設利用者数及び主催事業への参加者は、増加傾向</p> <p>・特別支援教室について、平成 29 年度に全校試行開設、平成 30 年度に本格実施</p> <p>・支援チームは、学校、教育支援センター（適応指導教室）、教育相談所、福祉等の関係機関等と連携して不登校児童・生徒への支援に当たってきた</p>	<p>不足または、問題になっていること【弱み】</p> <p>・14 歳以下の年少人口は、平成 29 年の 24,736 人から平成 39 年には 23,094 人（9%減）にまで大きく減少する見込み</p> <p>・自治会・町内会などの地縁組織やその活動は衰退する傾向、助けあい・支えあいなどの共助（相互扶助）の機能やしきみの弱体化が進行</p> <p>・授業の中で、目標、目当て、狙いが示されていたと回答した割合は、全国平均より 4%低い、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと回答した割合は、全国平均より 6%低い</p> <p>・漢字の読み書き、商を分数で表すこと、学習した用語についての理解など、幾つかの内容について全国の平均正答率を下回っており、知識・技能を身に付ける指導方法の工夫・改善をしていくことが必要</p> <p>・中学校において学習目標を示したり、学習したことを振り返ったりする活動の割合が全国平均より下回っていることから、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れられるように工夫をすることが必要</p> <p>・市民の週 1 回以上のスポーツ実施率は、30 代、40 代の働き盛り世代で低い傾向</p> <p>・近年はゲーム機や携帯電話の普及により、身体を十分に動かすことのない遊びが増加</p> <p>・教育や学齡期の障害児に対する支援については、子どもの特性に応じた教育の充実を求める声や、放課後の活動場所や療育の場を求める声が多い</p> <p>・ひばりが丘公民館の分室化に伴い、西東京市公民館の運営体制を見直すことが必要</p>

次期西東京市教育計画（平成 31～35 年度）に向けた基礎調査結果の整理

資料 4

基本方針	方向	H29 アンケート結果		H29 ヒアリング調査結果
		充実、改善していること（強み）	不足、または問題となっていること（弱み）	
1 「生きる力」の育成に向けて	(1) 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校を楽しいと思う児童の割合が前回調査よりも増加（1.2 ポイント） 約 9 割の児童・生徒が楽しいと感じている 	<ul style="list-style-type: none"> 学校を楽しいと思う生徒の割合が前回調査よりも減少（0.9 ポイント） 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の子どもの居場所になる施設だが、忙しい子どもが多く、遊ぶ時間が少なくなってきたように感じる。 授業時間が増えたためなのか、宿題も増えていて、保護者に対して求められるものも大きく強くなっているし、その期待に応えようとすることで、子どもの負担が過重になっていると感じることもある。 人と関わる時間が少なくなってきたせい、他の人が何を感じているのか、どう思っているのかということに敏感でなく、自分の発した言葉が、相手を傷つけることに気がつかない子どもが増えているように思う。 弱みを見せない子どもが多い。不平不満は言っても、それが自分の弱点につながることを、とても怖がる傾向にある。自分のできる面、強い面、得意なことを見せたいが、得意でないことや苦手なことは、他人に見せたくない、知られたくない、やりたくないという気持ちがあるのだと思う。 子どもたちの発言に、学校での自己実現がなされたときの達成感が感じられる。叱られたことは、あまり話さないのは当然だが、褒められた話やがんばっている話が喜びとして出ている。学校で活躍し、自分らしくいられて、やりたいことをみつけている姿を見ると、とてもうれしい。 幼稚園と小学校それぞれで子どもたちがどのような活動をしているのかをお互い知ることができると連携につながる。 幼稚園では自分で考えて、行動できるような力をつけて卒園させているが、小学校に入ると先回りして対応されてしまい、自分が考える機会が減ってしまうことが残念に感じている。 保育園では支援が必要な保護者・家庭が増えてきている。 公立・私立を含めた保育園同士、また幼稚園との連携はあまりないが、就学前教育プログラムの作成ができると小学校への円滑な移行につながるのではないかと。
	(2) 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自分に自信をもてるどころが「ある」と思う児童・生徒の割合が前回調査よりも増加（小学生：6.1 ポイント、中学生：1.3 ポイント） 児童・生徒が学校や先生に望むこととして、「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」の割合が前回調査よりも減少（小学生：15.5 ポイント、中学生：15.3 ポイント） 「先生にはみんなに平等に接してほしい」という回答が、小学生の割合が前回調査よりも減少（3.6 ポイント） 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に自信をもてるどころが「ある」と思う児童・生徒の割合は、学年が上がるにつれて低下 児童・生徒が学校や先生に望むこととして、「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」、「興味のあることをたくさん勉強できるようにしてほしい」、「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」などが上位 「先生にはみんなに平等に接してほしい」という回答が、学年が上がるにつれて高い。中学生の割合が前回調査よりも増加（9.6 ポイント） いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこととして、「学校の先生が児童・生徒を注意深く観察し、状況を把握すること」「専門の相談員（スクールカウンセラー）に、いつでも悩みを相談できること」が上位 学校教育の現場で課題として、「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」が上位 西東京市の学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うことは、「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」（一般：9.6 ポイント減少）が最も高く、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」（一般：3.5 ポイント増加）、「社会生活に必要な常識やマナー」（一般：5.2 ポイント減少） 	
	(3) 健康と体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の 19.8%、中学生の 14.8%が、家で食べる時間は「決まっていない（その日によって違う）」と回答、前回調査よりも小学生で 1.7 ポイント、中学生で 10.2 ポイント減少 いやなことやつらいことがあったとき、相談できる人がいない児童・生徒が 1 割（小学生：1.2 ポイント減少、中学生：5.3 ポイント減少） 		
2 「生きる力」を育むための学校教育環境の充実に向けて	(1) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 「公立学校教育で取り組んでほしいこと」の中で、「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」は前回調査よりも 6.1 ポイント減少 	<ul style="list-style-type: none"> 「公立学校教育で取り組んでほしいこと」の中で、「教職員の能力の向上」が最も高く、次いで「基礎学力習得の補習」「老朽校舎の建替えや改修」「少人数学級」「安全や防災教育の充実」などが高い項目 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケートでは、西東京市の子どもたちや学校教育の現場で課題だと感じていることとして「家庭の教育力の低下」の割合が最も高く、次いで「学校の施設や設備」、「家庭環境などによる教育格差」の割合となっている。 教員アンケートでは、今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものとして、「少人数学級」の割合が最も高く、次いで「老朽校舎の建替えや改修」、「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」の割合となっている。
	(2) 学習環境等の整備	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを取り巻く環境で増加・向上していることとしては、「学校における情報機器を活用した授業」 	<ul style="list-style-type: none"> 教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古いと考えている児童・生徒が増加（小学生：2.8 ポイント増加、中学生：11.7 ポイント増加） 	
	(3) 学校経営改革の推進		<ul style="list-style-type: none"> 望ましい小学校・中学校の教師像として、「授業をしっかりとわかりやすく教える先生」（一般：0.7 ポイント）、「児童・生徒の状況をしっかりと把握する先生」（一般：3.2 ポイント）、「児童・生徒の話をきちんと聞く先生」（一般：2.7 ポイント）など 	
3 一人ひとりを大切にする教育の推進に向けて	(1) 通常の学級での個に応じた支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに応じた支援の充実のために必要な取り組みとして、「すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の充実」（1.2 ポイント減少） 	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市立小学校・中学校における、一人ひとりに応じた支援について、「充実していない」が「充実している」を上回る 一人ひとりに応じた支援の充実のために必要な取り組みとして、「人的（人員）配置の充実」、「授業中の個別の配慮、放課後や授業中などの特別な個別指導」（3.9 ポイント増加） 子ども一人ひとりに応じた支援を行うために、西東京市教育委員会が力を入れる必要があることとして、「通常の学級における一人ひとりに応じた支援」、「障害のある児童・生徒への接し方などを周知すること」が上位 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども日本語教室については、より支援が必要な子どももいるが、保護者の送迎ができずに来ることができない場合もある。また、市内 3 か所のため、場所が不足している。 障害者理解のため、教育の中で自分たち（障害者就労支援事業所）を役立ててほしい。障害者の支援だけでなく、地域への支援という観点で障害者を含めた地域住民の利益を目指している。 障害がある子どもは他の子どもにくらべて、遊びの幅が狭い傾向にあるので、関わりについて保護者が悩むことも多い。 西東京市でも、子どもの居場所づくりの重要性が言われているが、その中で地域の学校に通っていない障害児も参加できるように考えていただきたい。 特別支援学級に通うことで、逆に将来の選択肢が狭められてしまうことがないような制度にしてほしい。知的障害がない子どもでも、特別支援学級に進むと、学習内容が通常学級とまったく違う。それを心配する保護者は多い。 今後、「合理的配慮」という言葉を使う保護者が多くなる。通常学級の中で、どこまで配慮を求めることができるのか、支援学級では普通に対応していることでも、通常学級では合理的配慮だということになるのではないかと。 通常学級の子どもやその保護者に対する障害者理解を促進してほしい。
	(2) 特別支援学級の発展と充実	<ul style="list-style-type: none"> 「公立学校教育で取り組んでほしいこと」で、「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」（6.4 ポイント減少） 一人ひとりに応じた支援の充実のために必要な取り組みとして、「障害のある児童・生徒に配慮した施設・設備の充実」（20.7 ポイント減少）、「特別支援学級等での専門的な教育の充実」（17.0 ポイント減少） 		
	(3) 教育相談の発展的展開	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに応じた支援の充実のために必要な取り組みとして、「子ども一人ひとりの実態に応じた相談体制の強化」（4.3 ポイント減少） 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりに応じた支援を行うために、西東京市教育委員会が力を入れる必要があることとして、「不登校ひきこもり相談室の充実」、「教育相談の充実」、「スクールカウンセラーの拡充」など 	

基本方針	方向	H29 アンケート結果		H29 ヒアリング調査結果
		充実、改善していること（強み）	不足、または問題となっていること（弱み）	
	(4) 教育実践を支える情報活用と研修等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに応じた支援の充実のために必要な取り組みとして、「教職員の専門性の向上」(10ポイント減少) 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりに応じた支援として、西東京市教育委員会が設置している場所や人について、「知っているものはない」が一般で43.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の不安は情報不足によることが多いので、保育園や学校等を通して、さまざまな情報を保護者に伝え、相談につなげていくとよいのではないかと。 医療的ケアの子どもがこれからどんどん増えていくので、それについての西東京市の方針を知りたい。
4 社会全体での教育力の向上に向けて	(1) 家庭の教育力向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> 家族とほとんど話すことがない児童・生徒が1割弱（小学生：0.6ポイント減少、中学生：1.8ポイント減少） 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこととして、「親が子どもを見守り、実態を把握すること」が最も高い 子どもたちを取り巻く環境で減少・希薄・低下していることとしては、「家庭と地域の結びつき」 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の場を使い、中学生ボランティアを呼び、地域の中で一緒に行事を行うということをポイントにして取り組んでいる。中学生には、ただ来てもらうだけではなく、中学生が地域の中でボランティア活動をする場づくりにもなっている。 公民館活動において中学生がボランティアとして参加してくれたことがあったが、もっとクローズアップした方がいい。 学校施設開放運営協議会として地域生涯学習もやりたいのだが、放課後子供教室の利用者が多く、手が回らない。育成会等、他の団体との連携が今後必要。 市民の中には、「不登校を支える親の会」や発達障がいの家族への情報提供など行う「ペアレントメンター」、中学校内で運営する「放課後カフェ」、地域での「子ども食堂」の活動など多岐にわたる活動が展開されているため、こうした市民の活動もキャッチして集約し、総合的に子どもたちの育ちを応援できるシステムを構築していただきたい。 児童館では、学校の先生と情報共有がしたいが、先生も忙しく、難しいのではないかと。 図書館で実施しているおはなし会の参加者の減少・低年齢化があるため、地域で楽しめる場があることを、多くの子育て世代に知ってもらい、遊びに来てもらうことが必要。そのために親子で楽しめるおはなし会づくりが課題。 教員アンケートでは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なこととして、「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が最も高く、次いで「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと」、「学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること」の割合となっている。
	(2) 社会教育の特色を活かした青少年教育の支援		<ul style="list-style-type: none"> 平日の学校以外の過ごし方をみると、小学生の47.4%中学生の44.5%(19.7%)が「自宅でひとりで過ごすことが多い」と回答。(前回調査より小学生28.9ポイント、中学生24.8ポイント増加)、そのうち、小学生の17.8%、中学生の36.1%は「特に何もせず、ぼーっとしたり、寝たりしている」状況 	
	(3) 活力のあるコミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> 参加・協力してもよい身近な小学校・中学校の取組やそこを拠点として行われる地域の活動として、「学校の行事やイベント」(1.4ポイント増加)など 	<ul style="list-style-type: none"> 参加・協力してもよい身近な小学校・中学校の取組やそこを拠点として行われる地域の活動として、「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」(3.1ポイント減少)など、「特になし」が27.5%と3.9ポイント増加 地域の活動を行うにあたって困る点は、「どうやって活動すればいいかわからない」、「開催されている活動場所などを知らない」など 子どもたちを取り巻く環境で減少・希薄・低下していることとしては、「地域社会での人間関係」、「子どもと高齢者がふれ合う機会」 	
	(4) 学校・家庭・地域・行政の連携強化		<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた学校にするために大切なこととして、「学校だよりやホームページなどにより、学校や子どもの様子を積極的に公開する」、「登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる」、「教育や子どもの問題について、学校・家庭・地域が話し合う場を設定する」などが上位 「子ども食堂」という取組について、「知らない」が最も高い 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なこととして、「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」をあげる市民が72.2%(21.3ポイント増加)と特に多い 	
5 いつでも・どこでも・だれでも学べる社会の実現に向けて	(1) 多様な学びを支える生涯学習の振興		<ul style="list-style-type: none"> 公民館を利用しない理由としては、「利用の仕方がわからないから」(一般：7.8ポイント増加)、「公民館で行っている事業などに興味がないから」(一般：7.1ポイント増加、青少年：2.1ポイント増加)、「公民館の場所がわからないから」(一般：0.2ポイント減少、青少年：2.5ポイント減少)という理由もあげられている 西東京市の学習環境は、大学や高等学校の講座・教室(一般：65.3%)やカルチャーセンターや個人教授の教室など(一般：63.9%)の充実や学習や活動の成果をいかせる機会(一般：62.9%)が評価されていない 生涯学習に関して、知りたい情報は、「開設されている講座・教室の情報」、「利用できる施設の場所・時間などの情報」、「講演・展覧会などのイベントの情報」など 「今はしていないが、今後してみたい」こととしては、「語学・コミュニケーション」(一般：7.3ポイント増加)、「暮らしていく上での様々な知識」(一般：11.6ポイント増加)、「芸術的・文化的なもの」(一般：5.9ポイント増加)など 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動をしていることを他の市民にもっと知ってもらいたい
	(2) いつでも・どこでも・だれでも学べる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市の学習環境は、図書館やスポーツ施設の利用のしやすさが評価されている 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習を行うにあたって困る点は、「費用がかかる」が最も高く、「学習内容や時間帯が希望に合わない」、「開催されている講座や、利用できる施設などがわからない」、「身近なところに学習や活動の場がない」、「どうやって活動すればいいかわからない」など この1年間に、公民館を利用したことはない人が69.1%(一般)、図書館を利用したことはない人が40.9%(一般) 	

西東京市の地域特性及び基礎調査を踏まえた次期西東京市教育計画（平成 31～35 年度）の重点課題

【現状と課題】

【重点課題】

【現計画の体系】



次期西東京市教育計画（平成31～35年度）の体系（案）①

現計画		重点課題	新しい国の方向性	懇談会からの次期計画に向けたキーワード	次期教育計画の体系（案）	
基本方針	方向				基本方針	方向
1 「生きる力」の育成に向けて	(1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成 (3) 健康と体力の育成	① 将来の社会的自立に必要な能力や態度を幼少期の段階から育んでいくことが必要 ② 「生きる力」を育むため、子どもにとっても、教員にとっても安心安全な教育環境を確保していくことが必要 ③ 生涯学習の推進による豊かな活力ある地域をつくっていくことが必要	○「第3期教育振興基本計画」（平成30年3月） 答申内容は次のとおり 1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する (1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成 (3) 健やかな体の育成 (4) 問題発見・解決能力の修得 (5) 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成 (6) 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進 2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する (7) グローバルに活躍する人材の育成 (8) 大学院教育の改革等を通じたイノベーションを牽引する人材の育成 (9) スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成 3 生涯学び、活躍できる環境を整える (10) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 (11) 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進 (12) 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進 (13) 障害者の生涯学習の推進 4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する (14) 家庭の経済状況や地理的条件への対応 (15) 多様なニーズに対応した教育機会の提供 5 教育政策推進のための基盤を整備する (16) 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等 (17) ICT利活用のための基盤の整備 (18) 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備 (19) 児童生徒等の安全の確保 (20) 教育研究の基盤強化に向けた高等教育のシステム改革 (21) 日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化 ○「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年3月） 諮問内容は次のとおり 1 関係者の連携と住民の主体的な参画による新しい地域づくりに向けた学習・活動の在り方について 2 公民館、図書館、博物館等の社会教育施設に求められる役割について 3 社会教育施設が求められる役割を果たすために必要な具体的方策について	・教科書が読める（わかる）ようにする ・IT教育の基盤整備（2023年レベル） ・すべての子ども達に基礎・基本の学力の習得を ・キャリア教育の拡充（キャリア教育で大人になることのイメージを持つ） ・目的意識（なぜ学ぶのか、なんのために生きるのか）自分の望む将来像の想像⇒自ら学び考え行動する ・自己理解と他者理解 ・夢・志を感じる（考える）機会 ・心の教育→道徳教育の充実 ・健康教育の充実（がん教育・成人病・薬物（アルコール）・食育） ・通常学級での支援の拡充 ・支援体制の充実 ・特別支援・配慮の必要な生徒の支援 ・小学校低学年の正副担任制 ・小学校の少人数化 ・保護者と先生のコミュニケーションのためのゆとり ・教職員のカウンセリング ・地域の大人の役割を考える機会をつくる ・部活動と地域の協働 ・親に育つ機会を！（想像力が働くようになるために・・・） ・学校における家庭教育の充実・講座開設 ・保護者教育（聴く力・受け入れる力・育てる力・見る力・カウンセリング・コーチング力） ・課題のある家庭の保護者に伴走型の支援を（ホームスタートの小・中版） ・未就学から大人まで何らかの困難を持つ家庭の一貫支援、ケアマネ的な相談体制 ・“乳幼児の教育”という視点 ・SSW（スクールソーシャルワーカー）の活用・発展 ・小・中・高生が参加しやすい講座を！（日程も含め） ・活動の場を増やす（空き家等の活用で） ・公民館機能の充実 ・誰もが学べる（障害のある人、多様な年代）講座の充実 ・生涯学習におけるIT活用 ・家庭教育向上の具体的施策 ・家庭からはじまる教育 ・世代を超えた多様な学び	1 子どもの「生きる力」の育成に向けて	1 社会の変化に応える確かな学力の育成
	2 「生きる力」を育むための学校教育環境の充実に向けて					(1) 特色ある学校づくりの推進 (2) 学習環境等の整備 (3) 学校経営改革の推進
3 一人ひとりを大切に教育の推進に向けて	(1) 通常の学級での個に応じた支援の充実 (2) 特別支援学級の発展と充実 (3) 教育相談の発展的展開 (4) 教育実践を支える情報活用と研修等の充実	1 子どもの「心の健康」に向けた相談・支援の充実				
	4 社会全体での教育力の向上に向けて	(1) 家庭の教育力向上の支援 (2) 社会教育の特色を活かした青少年教育の支援 (3) 活力のあるコミュニティづくり (4) 学校・家庭・地域・行政の連携強化	2 子どもの「心の健康」を育成する教育支援体制の充実			
5 いつでも・どこでも・だれでも学べる社会の実現に向けて	(1) 多様な学びを支える生涯学習の振興 (2) いつでも・どこでも・だれでも学べる環境の整備	3 個に応じた教育的ニーズに対応する教育資源の充実				
	4 「学び」を身近に感じ、「学び」を實踐できる社会の実現に向けて		1 時代の変化に対応した学習環境等の整備			
2 学校における働き方改革の推進						
3 持続可能な社会をつくるための教育環境の充実に向けて		3 社会に開かれた教育環境の整備				
		4 家庭や地域における教育力の向上				
1 子どもの「生きる力」の育成に向けて		1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興				
		2 誰もが学習に参加できる機会の充実				
2 子どもの「心の健康」の育成に向けて		3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用				

次期西東京市教育計画（平成31～35年度）の体系（案）②

次回以降検討（想定する施策と事業例）

